ナマステ

特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌

132 号

2018 年 5 月 25 日発行号

早くも夏の活動のご案内です（日程変更もしています）！

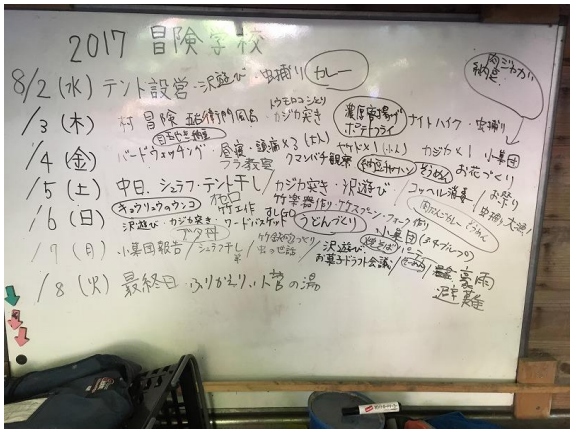
■ 活動案内 ■

その１ 冒険学校「こすげ冒険学校」　8.5～8.11（6 泊 7 日）

小菅村の自然と文化を満喫しながら過ごす６泊７日の長期キャンプです。川遊びでは飛び込んだり、魚がいっぱいいる淵で泳いだり、魚を捕ったり、思う存分に遊び続けよう！！寒くないように焚き火をしながら、お風呂も沸かしておこう。毎晩星を眺めながら眠くなったら寝てしまおう！！一緒に山の中や村の暮らしを探検する７日間です！

日 程：８ 月５日（日）～８月 11 日（土）６泊７日
場　所：小菅村のいつものキャンプ場
宿　泊：テント・ログハウス・野宿などで寝袋
対　象：小学校３年生～中学校３年生　20 名
参加費：会員：￥30,000　　非会員：¥32,000
申込み：７月 13 日（金）まで、先着順です。

※日程が 8/5-11 に変更しましたので、よろしくお願いします！！



今年はどんなプログラムになるか、楽しみですね！？

その２「タイ環境学習キャンプ」　8.11～8.20（9 泊 10 日）

今回も首都バンコクから車で数時間、ウタイタニー県バンライ郊外の「パンダキャンプ」を拠点に活動を展開します。毎年訪れているファイカケン野生動物保護区は世界遺産であり、観光客はもとより、地元の方でも許可がなければ入れません。貴重な動物を見て、密猟者から保護区を守るレンジャーからの話あります。恒例の現地教員とのワークショップも好評となっています。高層ビルの立ち並ぶバンコクと少数民族が暮らす亜熱帯の森に皆さんは何を感じるでしょうか？通訳、ガイドも同行し、現地のラジャバト大学との連携もありますので安心してご参加くださいませ！！

日　程：8/11（土）～20 日（月）　　対　象：高校生～一般　（中学生以下は要相談）
参加費：会員 155,000 円　非会員 165,000 円　　※航空券と現地での費用が含まれています。
申込み：　６月８日（金）締め切りです。出発前に参加者ミーティングも行いますのでご安心を！

その３ 冒険学校「やまめキャンプ」「いわなキャンプ」　8.14～8.16

「小菅村をぜひ体験してみませんか？」　キャンプをしながら、小菅村の自然と文化を感じるキャンプを行います。親子での参加が可能なキャンプです。大人の方もお子さまとご一緒に、小菅村の自然や文化に触れてみませんか？　ご一緒にキャンプをしながら、野外で食事をつくり、思いっきり遊びながらテントで休みます。「自然」という名の遊び場は最高ですよー。今年も「やまめキャンプ」「いわなキャンプ」と連続して行います。連続で参加して２泊３日のキャンプにすることも可能ですよ～！！

「やまめキャンプ」：8/14～15　１泊２日　「いわなキャンプ」：8/15～16　１泊２日

※　連続での２泊３日も OK でゆっくり過ごすこともできます！

場　所：小菅村のいつものキャンプ場　　**宿　泊：テント・ログハウス・野宿など**

対　象：小学校３年生以上は子どものみの参加可能。20 名　　**申込み：　７月 20 日（金）まで、先着順です。**

参加費：1 泊２日親子での参加：20,000 円(会員)　　**※連続参加、子どものみの参加など割引きあります。**

※日程が変更してますので、よろしくお願いします！！

お子さんと一緒に沢登り　　白糸の滝ツボへダイブ！！

参加の申込は事務局まで、E-mail かハガキで、氏名（ふりがな）、住所、電話番号、年齢（学年）をご記入の上、お気軽にお申込ください。お待ちしております～♪

その４「INCH(祭り)ライブ 2018」　9.22～23(1 泊か日帰り)

秋の一大イベント**「INCH 祭り」**を開催します！ログハウスのあるキャンプ場で、「INCH ライブ」を開催します！

ライブをＢＧＭに、のんびりとお酒、お茶でも飲みながら過ごしませんか！！　音楽を愛する方は楽器持参で、腕に自信のある方もない方もぜひぜひお越しください♪　毎年おなじみのバーテンダー「ひでやん」もバーを開きます！！

←野外でバーも開催！

■日程９月 22 日（土）～23 日（日）日帰りも OK

■会場：山梨県小菅村いつものキャンプ場

■対象：子どものみの参加はできません。

■交通機関

※小菅村までの交通は自力になりますので、よろしくお願いします。バスの時間などはご相談ください。

■お申し込み：ライブの当日参加は OK です。楽器を持ってお越しください。

タイ環境学習キャンプ」特集～はじまってから 20 年⑨

昨年に引き続き４月に、タイでいつも私たちをお世話してくれるチナタッタさんが来日した。今回ご家族４人での訪日である。ラジャバト・プラナコーン大学の教授を昨年秋に退職し、今は週３日ぐらい大学であまりやりたくない仕事をしているらしい。４月１３日の夜にゴミ・ゴメで都内で接待した。

この夏も８月にタイへ出かける。一緒に行きたい方は事務局まで連絡を。　　（中込　卓男）

『ソイの奥から　2014』2

若林卓司

７月 11 日から初転法輪祭、入安居、さらに日曜日、振り替え休日と４連休になった。この連休を利用して、ポンティップ、お母さん,義妹のムアイ、それにネコのクリも含めてウタイタニーのシリポンさんを訪ねた。私の目的はいろいろあったが、昨年東京の二人の中込をリーダーとしたゴミ・ゴメグループがシリポンさんを訪れたとき、毎年行う地元の先生や学生に対しての環境教育を済まし、フーワイカーケーン野生動物保護区のカオバンダイからの帰り、シリポンさんの知り合いの元区長を訪ねた。

▲カオバンダイ　　カーケーン川

▲目の前で見ることができたマクジャク

その時ゴミ・ゴメの二人はこの元区長にカレン族の昔から栽培している野菜類や、最近作らなくなったものなどの質問をした。私はその時通訳をしたのだが、話の中で、この人が昔、カーケーン川の流域のカレンの部族に居たことを知った。その時ちょっと聞いた話では、若い時、そこに進出してきた共産主義者の活動に加わったということであった。あまり念押しして聞かなかったこともあって、私はこれは得難い証人に知り合えたと喜んでいた。それでいつか、当時の話を聞きたいと思っていた。今回、シリポンさんに案内を頼んで。この元区長の話を聞いた。結局、共産主義者と行動をともにしていなかったのだが、聞いた話を以下に記しておく。

▲元区長さん　メモを取る若林さん（左）

1974 年タークのウンパーンのほうから共産主義者が南下してきて、元区長の居た部落クラン・クライにきて、脅しをかけながら協力の有無を質した時、当時 20 ぐらいだったこの元区長のお父さんはその時区長をしていて、結局全集落の移動を決めたという。カーケーン川の流域にはカオバンダイを最北として 10 を超える部落があったというが、ある部落は共産側についたという。元区長らは今のイマーム・イサイに移って生活を始めたが、政府側についたとしても、「ケン・バーン」と呼ばれる防衛隊のようなものを組織させられたという。共産軍がフーワイカーケーン保護区の外にある部落を襲撃してきたからだ。カレンにとっては兄弟が戦うはめになったりしたので、本気にはなれなかっただろうが、共産軍と政府軍からの圧力はあっただろう。結局カレンに関しては双方に 2 人の死者がでたそうだ。この戦いは共産軍がジリ貧になり、1985 年に終結した。

　聞き違いはないと思うが、この 1985 年はちょっとおかしいと思う。元区長は戦争は 7 年続いたと行っているので、1974 年に始まったとすれば 1981 年になるはずだ。その後、残っていたカーケーン川沿いのカレンの集落はすべて立ち退きの目にあい、最南端のカオコダイチャーン（以前はカオバンダイの別名だと思っていた）がシーナカリンダムの建設で沈み、またそれ以外の地はフーワイカーケーン野生動物保護区に組み込まれてしまった。当時、共産側についたカレンの人は今、60 歳以上で、かなりの人が元区長がいる保護区の外のいくつかの部落に住んでいるはずなので、シリポンさんに骨を折ってもらって、もう少し、詳しく話を聞こうと思っている。

▲若林夫妻　大学の日本語を教えるスタッフルーム

▲2017/8/20　バンコク近郊の干潟で野鳥観察

『藤農便り』 第１３号

宮本茶園　　宮本　透（自然文化誌研究会）

極寒での外作業がたたったのか、３月上旬五日間寝込みました。賃金労働者を続けていれば３月末で定年退職、６０歳を過ぎ確実に老人になった事を布団の中で実感しました。今年は寒暖の差が激しい茶農家泣かせの春、３月２１日藤野では雪が降りました。その後暖かい日が続き、４月７日から３日間遅霜がありました。ちょうど茶の新芽が出始めた頃で、朝真っ白になった家の屋根を見てオロオロしながら畑にすっ飛んで行きました。４月中旬からはたっぷり雨が降った後は高温になり、一気に芽が伸び収穫まで気が抜けませんでした。収穫予定日の天候が気になり、起床するとまずYahoo!天気をみる習慣が身に付きました。

・ちーむゴエモンの活動その２

１月に千木良のヤギ苑で仕込んだ醤油は、日連の尾崎さん宅で管理しています。樽の中でゆっくり熟成していく様子は、まさに微生物の世界を描いた漫画もやしもんの世界です。もろみの色は月ごとに黒味を帯び、４月にはうっすら白く産膜酵母が表面を覆っていました。産膜酵母は醤油の風味を劣化させるので、発生を防ぐためにもろみをかき混ぜる作業が大事だそうです。この先どのように熟成していくのか、月末の天地返しを楽しみに観察してみます。

４月２７日、高橋さん宅でイネの播種作業をしました。農業高校の授業では農協から苗を購入していたので、恥ずかしながら播種作業は初めての体験です。育苗箱に培土を均等に詰めて古代米はばら蒔き、ウルチ米・モチ米は機械植えをするので播種機を使って筋蒔きにしました。午前中作業して２９箱、前日高橋さんが一人で播種した３６箱と合わせて６５箱が育苗ハウスに並びました。これからも田植え・草取り・稲刈り・大豆・麦栽培等、ちーむゴエモンでの農作業を紹介していきます。）

・野草の天ぷらとお茶摘みの会

４月２９日はＩＮＣＨ恒例の野草の天ぷらとお茶摘みの会、天気に恵まれ学大環境教育研究センターには６４家族、スタッフを含めると９０名以上の人が集まりました。１時間みんなで摘んだ茶葉は2,6ｋｇ、セイロで蒸して焙炉でひたすら揉んでいきます。茶摘みの後は岩谷樹木医の野草採取ですが今年は手揉み作業に専念する参加者も多く、佐野川の茶栽培の話をしながら３時間６００ｇの新茶を仕上げました。

藤野では和田の里体験センターで、地元有志団体「和田の里みちくさの会」が茶摘み体験を開催しています。国分寺から藤野まで中央線快速で４０分です。学大のデイキャンプで茶摘みに興味を持った方は、佐野川の「日本の里１００選」になっている急斜面の茶畑に入って本格的な体験を楽しんでください。

・手入れされなくなった茶園再生の取り組み

前号で木村普及員の指導による手入れされなくなった茶園再生の整枝講習会の事を報告しました。木村さんは「景観維持だけでなく、茶園は収穫・出荷できるよう管理すべきだ」といわれますが、講習会に参加した梅本さんと相談し当面２人で協力しながら農村景観維持のために手入れする事にしました。４月２０日、作業をして２回目の整枝を行いました。

３月農業技術センターの研修会で経営診断がありました。税務署に提出した確定申告書では、昨年農業所得以上に経費がかかり数十万円の赤字です。生活のため昨年３月から児童クラブのアルバイトをしていますが、悲しい事に１日３～４時間週３日の賃金が農業所得の１．５倍になるのです。診断結果は厳しく「昨年同様の赤字なら農家をやめたほうがよい」でした。茶園が管理されなくなった理由は私の経営診断結果と同義だと思います。日本農業の抱える問題はこれほど単純ではありませんが、とにかく茶園再生に微力ながら取り組みます。

・茶収穫

４月１７日、農協藤野茶業部総会・部会が開催されました。部会では今年の一番茶摘採予定が話し合われ、２６日茶園巡回実施、５月１日各部員畑の摘採日調整会議が行われました。今年の春は気温が高く、昨年に比べ１０日ほど早く新芽が成長しています。

会議では部員が協力し合い、効率よく収穫作業を行う事が確認されました。連休後半の５日から摘採が始まりましたが７日から１０日までの４日間雨が降り続き、会議で決めた日程は大きく狂ってしまいました。

私の畑は１０日に足柄茶出荷用販売茶、１４日と２０日に自家用茶を収穫する予定でした。１０日は天気予報がはずれて雷雨、部員は早朝から携帯で連絡を取り合い摘採日程の調整をしました。木村普及員の助言もあり私の畑は１１日午後から１３日午前の摘採作業になりました。部員の大河原さんと中村さんが摘採機を持って駆けつけてくださり、ヘルパーとアルバイトの方たちの働きで５反すべての収穫を終える事ができました。就農２年目の収量は１０００ｋｇ、木村普及員と小池部長はじめ茶業部先輩農家皆さんの温かい指導の賜物だと深く感謝しています。

・雑穀栽培始動

２０１６年１２月に新規就農のため相模原市農業委員会に提出した営農計画書には、茶と雑穀栽培に取り組むと記載してあります。残念ながら昨年自分の畑では茶栽培だけで、雑穀を育てた藤野駅前畑と内郷畑は他人の畑でした。２年間雑穀栽培講習会を担ったので自分の畑で雑穀栽培したいと思っていたところ、昨年秋に藤野茶業部の田村さんから「空いている畑があるから、雑穀栽培する

なら貸してあげるよ」とお話をいただきました。上岩の茶畑近くにある１反の畑です。５反の茶畑とお手伝いした３反の畑を管理するので手一杯でしたので、「はい、お借りします」と即答できませんでした。

２月相模原市農政課主催の新規就農者情報交換会があり、出席しました。会場に農業委員の藤村先生がいらしてご挨拶すると「君と雑穀街道の事、話したかったのだ」といわれ、農政局や農協の幹部の方々を紹介してくださいました。雑穀街道の事は即に認知され「雑穀街道のＦＡＯ世界農業遺産認定で一番大切なのは、地元の農家がどれだけ雑穀を栽培しているかですよ」との助言をいただきました。「私は新規就農２年目ですが、佐野川で雑穀栽培に取り組んでいます」とこたえ、田村さんの雑穀畑を借りる気持ちを固めました。

藤野茶業部先輩の田村さんは大豆や麦作りが上手で昔から雑穀を栽培し、今でもキビを収穫しているそうです。まさに雑穀街道の地元農家で、一緒に雑穀栽培できる事心強い限りです。先日は草が生え始めた畑をていねいに耕してくださり、恐縮しています。茶収穫が終わったら、植え付け開始です！

・雑穀街道情報

４月９日、上野原市役所でＩＮＣＨ・雑穀街道普及会主催「雑穀街道とＦＡＯ世界農業遺産セミナー」が開かれました。平日にもかかわらず丹波山村長はじめ３２名の参加者があり、雑穀街道各地区の活動報告と情報交換が行われました。小菅地区の雑穀見本園は５月１２日播種、藤野地区の自給農耕ゼミ雑穀栽培講習会は６月３日開催に向けて準備しています。西原地区の雑穀トラストは４月２０日付毎日新聞に紹介され、５月５日現在で目標金額の１０５％の５２５,０００円集まったそうです。５月１２日キビの種まき＆キビまんじゅう作り体験が行われました。

藤野地区　自給農耕ゼミ雑穀栽培講習
問い合せ：宮本透 090-2205-8476 まで

学芸大学にて茶つみと製茶作業。来年は１週早くやるかも。

こちらは小菅の畑ウド。

『INCH の楽しい仲間たち』 vol. 7　その 15

『冒険探検粉塵記　第 15 話　　学術探検の道具』

駄作者　文福洞先斗

植物と人々の博物館の特別展示では、ぼくの国内外における野外調査での植物採集道具などをお見せしています。小菅村の井狩バス停近く（道の駅を下って幹線道路に出たところ）の植物と人々の博物館に、一度見にお越しください。

調査バッグの中身

野外調査でいちばん身近な道具はデイバッグです。雑穀研究チームなので、millet 社（フランス語ではミレーだが、英語では雑穀の意味）のものを愛用しています。機能性も良いのですが、millet であることにより意味があります。このバッグの中には、調査行動に必要ないろいろな道具を入れています。

カメラは 2 台持っています。景観や植物などを撮影するためには、ニコンの一眼レフ F2 フォトミックを使ってきました。就職したてに、高くてとても買えなかったので、先に就職していた妻女にボーナスで買ってもらいました。高山、砂漠、熱帯雨林、ラフロードなど、どこでも信頼を裏切らずに、綺麗な写真記録を残してくれました。本体は岩やジープなどあちこちにぶつけて傷だらけですが、1 回オーバーホールしただけで、今でも使用できます。ただし、ボタン電池なので、新宿駅近くの中古カメラ屋で電池は買わなければなりません。現在は、ぼくも残念ながらデジタル化に負けて、キャノンの一眼レフ EOS-Kiss を使っています。もう一台は、調理や人物を一瞬で手早く撮影するために、ハンディなオートカメラを使いました。アサヒペンタックス、キャノンオートボーイ、最近はキャノン IXY、どれも荒い使用に耐えきれずに、すぐに壊れて、それぞれ 2〜3 台ずつ買い換えました。こうしてみると、ニコン F2 は最高のカメラでした。フィルムは植物や景観撮影用にコダクローム ASA64、および調理用撮影用にコダカラー ASA100・400 およびモノクロも著作の印刷写真用に、目的によって各種使いわけていました。カラー印刷はとても高かったからです。

調査記録のためには、野帳スケッチブック、ボールペン、シャープペンシルなど、必要に応じて名刺も英語版で作っていました。スケッチブックは方眼紙なので、地図を描くのに便利です。手ごろな薄さ、大きさで、規格もそろい、使い易いです。

植物採集のための用具は、根ほり、剪定鋏です。特に根ほりは場合によっては護身用武器になります。もちろんこうした目的には使用しないで済みましたが、ちょっと危ないこともありました。植物やその種子を採集するために、竹製野冊、収穫袋、種子袋、ビニール袋、これらに書き込み記録するためにマジックインク、袋を封じるホッチキス、針を持っています。いずれも予備が必要です。収集種子は変異個体を区別して収集し、また現地共同研究機関と折半するので、収穫袋（パラフィン紙製）、種子袋（丈夫な紙製）は千枚単位で持参しています。

ちなみに、植物展枝・乾燥用には現地で古新聞を買います。しかし、古新聞は包み紙にするなどの用途があり、なかなか入手困難な場合があります。長期にわたって、高温多湿地域を調査する際には、植物標本はビニール袋に入れて、エチルアルコールを加えて封入します。イスラムの国ではアルコールは禁止なので、入手困難です。アルコールが切れるとカビが生えて、標本を捨てることになります。乾燥地ではできるだけ新聞紙に挟んで乾燥させます。すべて移動中に行う

ので、朝夜と梱包作業に時間がかかります。

測定用具は定規、メジャー、高度計、方位磁針、野外活動用時計などです。聞き取り調査や行動中の記録を録音テープまたは IC レコーダーに吹き込みます。しかし、調査後にテープ起こしをする時間が取れないことが多いので、できるだけ、野帳に記録することにしました。揺れ動くジープの中で、字を書くのは困難で、後で見て、自分の字ながら読めないこともあります。地図はとても重要で、日本でドイツ空軍制作などのものを購入していました（GPS はありませんでした）。また、現地でも購入しました。ただし、地図は軍事に関係するので、気をつけないと怪しまれます。空港でカメラを使用すると、フィルムは没収されました（今はめったにないですが）。日時場所を行動中に記録し、その夜のうちに行程を地図上で確認しておきます。どこで何を採集したかの記録は重要です。

ヘッド・ランプは早朝、夜に必要です。自動車のランプが壊れて、雨の夜にヘッド・ランプで走ったこともあります。小傘も欲しいです。財布、時計、パスポートは常時無くさないように身に着けています。

調査資材や生活用品

資材は、調査用紙、野帳、カメラ２台、乾電池各種、録音テープ、写真フィルム各種、ルーペ、さく葉標本乾燥用古新聞紙、標本保存用のアルコール、防虫剤、蚊取り線香。熱帯病医薬品は日本製を持参するが、抗マラリア薬、スポーツド・リンク粉末などは現地の薬局で購入します。耐性マラリアには日本製のものでは効かない場合があるので、現地製のものと交互に飲む。生活用具は軽登山靴、サンダル、アルコール・コンロ、コップ、ナイフ、ヘッド・ランプ、シェラフ・カバー、防蜂網、裁縫用具、封筒、報告書用紙、電卓、辞書など。生活用具はできるだけ現地バザールで購入します。寒い高山ではシェラフを、暑い低地ではシェラフ・カバーを使います。登山靴は汎用のために、軽登山用が良いです。宿泊時には素足、サンダルが便利です。嗜好品は、ウイスキー、タバコを免罪店で購入して持参します。禁酒法があったり、飲酒の習慣がなかったりで、現地調達ができません。長い夜に疲れた心身を安らげるには酒が必要です。タバコは村人や運転手と親しくし、休息のために一緒に吸います。パイプ・タバコやビリも時々吸いました。

セミナーなどで、調査研究について話すことを求められるので、35 ㎜スライド、論文別刷（USB や DVD はなかった）を持って行きます。

調査旅行は数カ月に及びますので、スーツ・ケースには、旅行用品、調査用品（フィルム、野帳、収穫袋、ビニール袋各種）、医薬品、衣類などを入れています。小旅行用には登山用ザックを使用します。帆布製の信玄袋は収集した種子や植物標本を運ぶために持って行きます。ブリキ衣装缶はバザールで購入し、収集種子や植物標本を入れて、別送品で日本の港湾の植物検疫所に送るために使います。

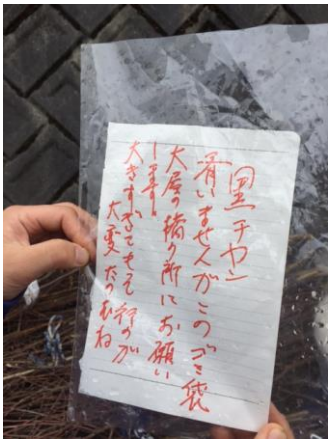
＊　調査で収集した、植物標本、写真記録、音声記録、民具、書籍、調査票、報告書などはすべて、植物と人々の博物館にアーカイヴとして整理して、残しますので、ご利用ください。なお、収集種子は東日本大震災時の計画停電、放射性物質汚染を避けるために、すべてイギリスの王立植物園キューのミレニアム・シードバンクに移管しました。ごく一部をローカル・シードバンクとして、トランジション・タウン藤野のお百姓くらぶに移管しました。農業生産法人藤野倶楽部の無形の家に種子保存冷蔵庫２台、森とむらの図書室藤野分室（農林業書籍 1500 冊）を置かせていただいています。また、JR 中央線藤野駅のホームの北側に畑もお借りして、日本村塾自給農耕ゼミ、雑穀栽培なども開催しています。

写真：道具展示。地球外生物 ET は 3000 歳の若い植物研究官で、ミレニアムごとに地球の植物をモニタリングに来ています。ごみ処理ロボット WALL・E が地球に残り、植物を育てたので、人類は宇宙から帰還して、再び農耕文明を始めました。ナウシカは腐海の謎を知ったが、トルメキア戦役が終わってからは風の谷に帰ったとも、森の人の元に去ったとも伝えられています。

＜小菅村の日常生活（業務）＞　H30.5.13

杉田一夫さん（84 歳）を訪ねた。塩山にある飲み屋「海」からワサビの注文を受けているので、一夫さんを訪ねたのだ。日曜日の午前中に訪ねたらワサビ 60kg を出荷し終わった後のようで、一緒に日本酒を戴いてしまった・・・。

帰り道でアキ子さん（８３歳）の家に回った。アキ子さんに、畑に使うソダを運んでくれと言われていたから。他のことも頼まれた。



こういう日常は楽しい。こういう日常ができる暇が無ければ、いなか暮らしは楽しくないかも・・・、と思う。　　くろさ

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.8　その 3

クリスマスとホグマニー（1）

佐伯　順弘（岐阜県）

夏休み明けの９月。既に冬旅の計画は始動していた。初イギリス旅行のたった４ヶ月後、ロンドンのクリスマスとエディンバラでの年越しを楽しむ旅に行くのだ。９月５日には航空券を確定した。KLM オランダ空港約１３万円のチケットである。その後、国内移動の LCC や宿、エジンバラホグマニーのチケットなどを次々と確保した。

ここでなぜこの年末にイギリスなのか説明しておかねばなるまい。（そうでもないか？でも、説明したい。）いくつかの単純な理由がある。前回のイギリス旅行ですっかりイギリスにかぶれてしまったこと、人通りが途絶えたロンドンのクリスマスの写真を見たこと、スコットランドにはホグマニーという年越し行事があると知ったこと、諸般の事情から日本に戻れないこと、昨年のクリスマスはあまりのさみしさに一人だけ、日本にいる人に電話をかけてしまったこと。これらの状況を総合的かつ合理的、さらに理性的に分析・考察した結果導き出されたのが今回のロンドンクリスマスとエジンバラホグマニー漫喫の旅約１２日間である。

DAY－１（22DEC）kaohsiung

休日出勤の土曜日。朝から行事、職員作業。この作業で一番大変な女性が一言の不平も言わずがんばっていたので、こちらがブーたれているわけにもいかず、その人のためにがんばった。その後の実のあるとは言い難い会議を耐え、勤務終了時刻を待つ。バイクをぶっとばし、帰宅。荷物チェック、洗濯、カメラデータ整理を終え、1810 マンション出発。タクシーで MRT（地下鉄）中央公園駅へ。左營駅で停車駅も確認せず THSR（台湾高速鉄道：日本の新幹線を導入）に飛び乗る。年末でどこも混雑しており、時間的にかなり厳しい状況だった。空港ちかくの駅である桃園駅は列車によっては停車しないものもあるので、飛び乗った列車が桃園駅に停車しないものだったら、状況はさらに厳しくなっていたはずである。しかし、賭けには勝った。これは幸先の良いスタートである。桃園駅から桃園国際空港まではエアポートバスで向かう。2110 頃到着。両替で 620GBP を手にする。

焦った割には、けっこう余裕があった。桃園国際空港には巨大なクリスマスツリーがあり、キリスト教徒でもないのに浮かれているのは（むしろ、キリスト教徒は浮かれていないと思うが）日本人だけではないと知り、少しだけほっとした。その後、チェックイン、イミグレーション通過。フライトは 24:20 だったので、空港でのんびり過ごす。この時間を楽しむために焦って空港に来るというのも愚かと言えば愚かだが、この時間が幸せなのだから仕方ない。旅のメモを書いたり、本を読んだり、到着してからの動きをシミュレートしたりして過ごした。

DAY１（23DEC）taipei　→　london

・23DEC2012　TPE0020　→　LHR1045

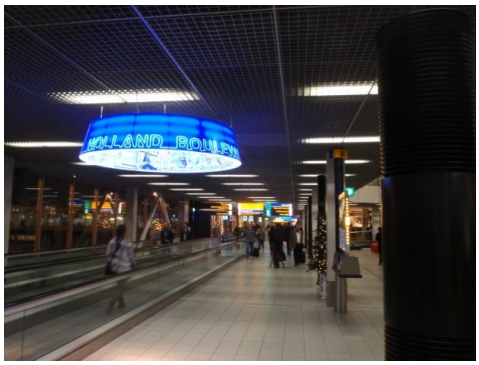
（１stop　AMS　Layover　3hr20min）

0027 搭乗、着席。三列シートの窓側。右側２人はフィリピン人の母娘だった。日本語を少し話すことができた。海外を旅すると母国語以外を話す外国人が本当に多いと感じる。しかも、それほどよく話せるわけではないのに、臆することなく話してくる。ここのあたりが、話せる言語を身につけられるかどうかの分かれ目なんだろうとデータもないのに静かに結論付ける。

0214 真夜中のディナー。ビーフ、ライス、パン、

バター、レモンムース、サラダ、赤ワイン。意外なほどうまい。10 時間後には朝食。うまい。
（アムステルダム時間に変更）
0645 台北を出発してから約 13 時間半後、オランダ、アムステルダムのスキポール国際空港（AMS）に到着した。トランジットである。運動もせず、機内であれだけ食べておきながら、時間つぶしにパニーニとホットチョコを摂取。絶対に体に悪いはずだが、旅の最中はどうでもいい。そのために日常節制しているのだ。

（パニーニ。ほっとする優しい味だった。）



（スキポール空港は広い。深夜~早朝にも関わらず、人もかなりいる。全体的に照明は落とされ、落ち着いた雰囲気である。歩いていないと眠くなってくる。体内時計は徹夜したあとの午後である。）
0959 搭乗。約 3 時間のトランジットを経て、イギリス、ロンドンへ向かう。
（ロンドン時間に変更）

1100 約 1 時間のフライトでロンドンのヒースロー国際空港（LHR）に到着。西に向かって飛んだので同日到着である。クリスマスツリーもなんかヨーロピアンな感じ。イミグレーション通過。カフェでイギリスに到着したことを味わいつつ、メモをとり、これからの予定を立てる。街の中心部に向かい、今夜の宿にチェックインするだけだ。しかも 1 回泊まっただけなのに既に定宿認定している The Generator である。問題はいかにガイドブックなどを見ないで、記憶を掘り起こしながらそこにたどり着くかである。ガイドブックや地図を見たら負けである。（誰にだ？）ロンドン生活者のようにオイスターカード（地下鉄のプリペイドカード）を使い、記憶を辿りながら、あっさりと到着。まだ早い午後なのに、冬のロンドンらしい曇り空は薄暗く、なんだかとても落ち着く。途中、見覚えのある風景に自然と顔がゆるむ。久しぶり、オレのロンドン。（調子に乗りすぎな自分に気づいている冷静な自分もいるが、敢えて無視である。）

（12 番のベッド。近くにあるピンクのバッグは隣のベッド占有者の持ち物である。）

1520 身軽になって、市内探索へ。

まずは、F&C でしょ。いうことで、専門店で早めの夕食。旅の最中は時間通りに食事をとるのではなく、できるだけ少なめにしておいて、本当に食べたいものを食べるようにしている。

そこかしこに、クリスマスディスプレイが。街中があたたかなキラキラにつつまれている。決して、目に痛いぎらぎらではないところがいい。街を彷徨っているだけで、幸せな気分になる。ま、旅に出ているときはいつも幸せな気分で彷徨っているのだが。

DAY2（24DEC）

0500 日中もずっと薄暗いため、なかなか体内時計が戻らないようだ。夜中に何度も起きるが、結局早起きしてしまった。出撃準備をして、レセプション前を通過しようと思ったら、クリスマスミールパッケージのポスターが目に入った。

eve dinner、Christmas lunch、Christmas dinner、boxing day dinner の４つがパッケージになって 40GBP。街のレストランに入るのも面倒くさいし、家族連れやカップルだらけなのは予想されたので、あっさり飛びついた。さて、これで今後の食事は確保された。が、しかし、まずは朝食だ。結局、気持ち悪いピエロの某バーガーショップ２４H に入る。BFmeal は、3.39GBP でそれなりの量と味。旅メモを書きつつ、今後執筆する小説の構想を練る。程無く飽きたので、ロンドンの名所めぐりに出かける。オイスターカードを活用し、地下鉄を楽しみつつ、トラファルガースクエア、ザ・マル、バッキンガム宮殿などをうろつく、どの場所にもクリスマスツリーなどのディスプレイが満載で雰囲気を盛り上げている。早朝（まだ７時）であるためか、クリスマスイブであるためか、人がほとんどいなくて、なんだか広々としている。

ザ・マルを通り、テムズ川へ。

（あまりにもベタな観光写真。曇り空がいい。）

ロンドンアイという観覧車の近くにはロンドン水族館がある。朝から水族館。入った途端に驚かされた。足元はガラス張り、下には魚が泳いでいる。本当に進んでいいのか。割れないのか？前にいた小さな女の子と目が合い、ここは平気なふりをして踏み出した。その女の子も後から渡っていた。あっという間に、ロンドン水族館を気に入った。館内には直接エイなどに触ることのできるコーナーもあり、楽しめた。

こんな看板まであった。ふざけている。（笑）Don’t eat yellow snow!だと？なんでこんなこと書きたがるかなぁ。おもしろいからいいけど。フランク・ザッパの曲にもあるけど、単純にそういう意味だ。水族館を出て、テムズ川に出ると天才ミュージシャンがいた。

ママに楽譜を持ってもらい、サックスを演奏する少年。カメラを出すとちゃんと視線を送ってくれるところはプロだ。何人もの人が集まって聞いていた。なかなかの演奏だった。

1210 観光の王道 48HRS big tour bus 29GBP

のんびりとロンドン観光である。乗り降り自由なので、とても便利。ボートにも乗れるということで当然乗ってみた。ナイトクルーズという趣で、なかなかよい。こんな素晴らしいクリスマスイブの過ごし方があるだろうか。

1830 宿に戻り、eve dinner をいただく。サラダやデザートもついて、お得感満載である。

DAY３（25DEC）

0300　業務上の必要から日本に電話。宿の wifi 接続でネット電話なので格安。来年度の動きをなんとなく匂わされ、前途多難な人生を感じる。折角旅行に来ているのに、こういうのはなぁとも思ったが、旅の途中だからこそ切り替えもしやすいと考え直し、また少し寝る。

0900 今回の大きなテーマの１つである。クリスマスのロンドンのゴーストタウン化の確認に出かける。昨夜からの雨である。地下鉄は入口が閉じられ、バーガーショップさえ閉まっている。なかなかのゴーストタウン状態だ。

こういう雨の日にしかもクリスマスの日に家族もいない人間がうろうろする例は希少である。

おもしろがってきてみたが、美しい風景をみられたものの、孤独感のカウンターパンチを受けたような感じだ。紙面も尽きた。次回はスコットランドの年越しの話である。

（つづく）

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.9　その 2

世界の森林減少とその課題にせまる（2）

―フィールドワークから考えるインドヒマラヤの魅力―

長濱和代（東京大学大学院　新領域創成科学研究科　博士課程）

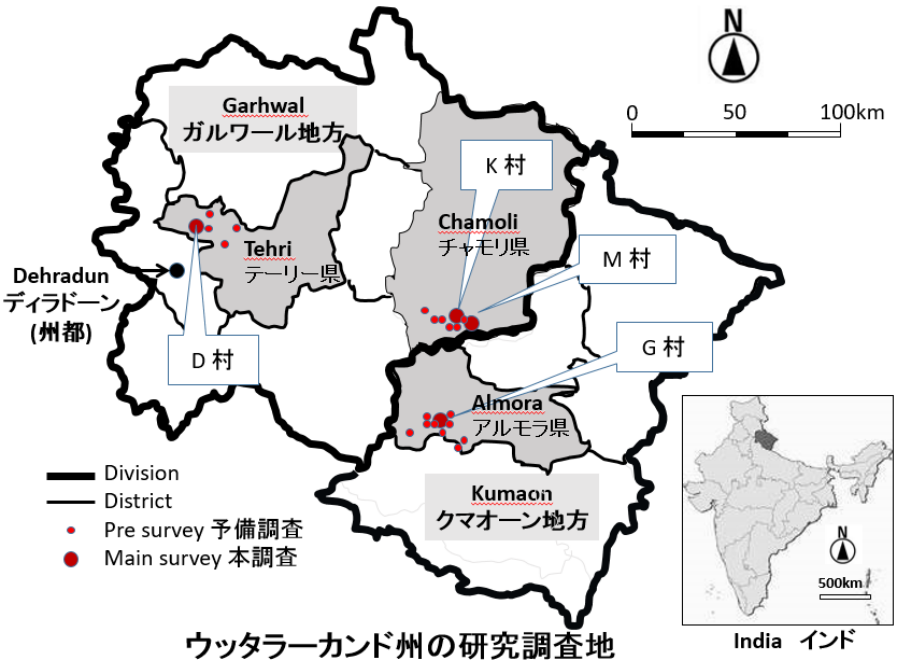
３ 月末に １ か月のインドでの調査から戻ってきました。「なぜ、長濱さんは毎年インドの辺境地域へ行くの？」とよく聞かれます（今回の原稿依頼は、その問いから始まった）。そこでまずは「博士論文を仕上げて、博士を取得するためです。」と答えます。博士論文を書くという名目があるから、毎年、インドヒマラヤへ行くことができますが、もし行けなくなったとしたら、自分は生きる力をなくすほどに、悲しみに暮れるでしょう。こう考えると、私は「好んで辺境へ赴く、通常とは違う感覚のヒト」と言えるのかもしれません。また同時に、「辺境」には「通常」とは異なる魅力があるとも言えそうです。前者なのか、後者なのか、それとも他にも要因があるのか、自分のインドヒマラヤでのフィールドワークを通じて、その魅力を整理してみました。

１．豊かな自然

ヒマラヤには美しい自然が残っています。

山村での生活では、早朝から鳥のさえずりが聞こえます。何種類の野鳥が鳴いているのかわからない複重奏なので、種の数を調べて、その同定を試みようと思いました。毎年、訪れる機会のある国立GBP環境開発研究所の研究者に聞くと、「このハンドブックが役に立つ」テキストをいただきました。開けば、州内には 100 種類以上の野鳥が確認され、年間を通じて 80 種が研究機関の周辺に飛来するとのことでした。バードウオッチャーにとって魅力的な場所だと思います。また植物においても同様に種は多様で、この地域では今世紀に入ってからも新たな種が見つかっているそうです。科学者にとっても、新奇性を高めるための魅力的なフィールドであると考えます。

「活きている」里山（2013年インド・ウッタラーカンド州）



ウッタラーカンド州の研究調査地

夜間に明るくない場所に立つと、闇が暗くて怖いと感じます。同時に見上げる星に感動し、首が痛くなるか、冬場では寒さに我慢できなくなるまで、空を見上げています。

人が入って良く管理された森も美しいと思います。生活のために人が林地に入って、燃料の小枝を取集し、飼い葉（家畜の餌）を利用している林地では、まるで生きているような「活動する里山林」が見られます。50 年くらい前までの日本でも、こんな風に森が利用されていたのではないかと、想像がかき立てられます。これぞ「活きている」里山だ！と言えます。

２．研究テーマの魅力

「持続可能な木質バイオマス・エネルギーを使い、林地の活性化を図るためのフロンティア的（最先端の）*) 暮らしをしている人々がいる！」

ケニアだけでなく全世界に、また身近なアジア諸国でそうした国や地域がいくつもあることを知るようになったのは、筑波大学の増田美沙先生の院生ゼミに参加し、研究を通じて世界各国の事例を学ぶようになったことが契機でした。

収集した小枝を燃料にするVP（森林パンチャーヤト）の前リーダー
（2018年 ウッタラーカンド州 テーリー・ガルワール県）

各国と異なるインドの特徴としては、1）経済的に発展を遂げながら森林被覆率が増加していること、2）木質バイオマス、いわゆる薪炭材を燃料として利用せざるをえない暮らしをする人々がヒマラヤ山麓の中山間地域にかなりの割合で存在していること、また 3）森林を村落住民により共同で管理する JFM（Joint Forest Management:森林共同管理）という制度が 1990 年以降導入されていることです。これらを知ったことで、インドヒマラヤの森林とそこで暮らす中山間地域の人々に興味を持つようになりました。

特に北部ウッタラーカンド州には国家森林調査機関（FSI）があり、イギリス植民地統治期から、イギリス統治国による政府高官のための森林学校が存在していました。そのため統計資料が充実していたことや、JFM の先駆と言われる VP（Van Panchayat: 森林パンチャーヤト: 森林管理の住民自治組織）が 1930 年代に制度として認められていました。それを知った私は、直感的に「この研究は歴史的にも制度的にも、そしてフィールドワーク的にも面白い！」と考え、大学院で調査研究を始めました。

【問：なぜヒマラヤ山麓では、木質バイオマス・エネルギーが必要とされるのか？】

ウッタラーカンド州はインド北部に位置し、州の北部から東部にかけては 7000m 級のヒマラヤ山脈をかかえるフロンティア（辺境）*) で、急峻な中山間地域（標高 3000 メートル余りの森林限界まで）に多くの村落が存在すること、そして州の森林被覆率が 6 割以上あり、多くの森林資源に恵まれていることが主たる要因として挙げられます。このことは、イギリスの植民地による支配の始まりが 1800 年代後半以降と、平野部と比較して遅かったことにも表れています。

でもみなさんは、電気を通して、プロパンガスを中山間部の山村へ運んで利用することができるなら、山へたきぎ焚き木を取りに行ってご飯を炊くよりも、家電製品やガスを使って調理する方が便利だと思いませんか。

地域では、（生計維持のために）、森で焚き木を拾って燃料に使うのは無料なので、経済的な負担がかかりません。特に BPL 世帯（Below Poverty Line: 1 日国際的には 1 日 2 ドル以下で生活している世帯、さらに低く 1.2 ドルで算出している統計もある）では、お金を節約するために、ガスや電気を保有していても、それらの利用はできる限り抑えることを心がける多くの世帯を観察できます。会社員や公務員の割合は低く、州における 8 割の世帯は小規模の農家で、自給自足的な暮らしをしています。こうした世帯では、収入源は政府から受託するわずかな金額の村落向上のための活動です。今年 3 月、州内 D 村への 1 週間の滞在中には、日曜を除く毎日、午前と午後の約 3 時間ずつ、村民が道を舗装している光景を目にしました（左写真）。

村落活動：コンクリートを流して道をつくる（2018年 D村）

３．森で生活する女性のたくましさ

森と暮らす女性のたくましさと仕事ぶりに、私はいつも感動を覚えます。彼女らは早朝（朝日が出た後）起きてすぐに、家畜小屋から子どものように可愛がっている牛や山羊たちを外へ出して飼い葉を与えると、家の掃除をしてから朝食を作り、食事をしながら家族と交流をします。昼間は畑仕事の他に昼と晩の食事の支度、午前と夕方に飼い葉の収集、近くの泉へ飲料水の水くみ、薪の収集など、晩まで仕事が続きます。またわずかな休息時には、自分がチャイを飲む時に居候の私の分まで作ってくれる等、目配りと気配りはすばらしいと思いました。

外の仕事から離れて、つかの間の休息（2018年D村にて）

道路の補修の村落活動では（2 ページ目の写真）、土でできた道に石を敷いてコンクリートで固め、道の整備をするのに、男性ではなく女性たちが多く賑やかに集まっていたので、なぜこうした力仕事に男性が積極的に取り組まないのかしら？と聞けば、「女性は何でもできて有能だから」と冗談を交えて答えてくれました。ヒマラヤ山麓の多くの世帯では、男性が都市や海外へ働きに出ている場合が多く、政府からお金がもらえる村落活動は、家にいる女性が参加するケースも多いようです。

ヒマラヤの魅力は、自然や人や食べ物、また伝統知の技など、他にもまだたくさんあるのですが、ここで紙面が尽きてしまったので、次号へ続くとさせていただきます。（第３回へ続く）

【脚注】

＊）フロンティアには、「最先端」という意味の他に「辺境」という意味もあります。ちなみに自分の所属している新領域創成科学研究科は、英語で Frontier Sciences（フロンティア・サイエンス）と訳されています。

テーリ―ガルワール県D村での質問紙を用いた面談調査
（2018年　筆者は左端）

おいしい村暮らし　第１回「わさびの花」編

こんにちははるこです。小菅村に住み始めて早 10 年以上が経ちました(早すぎる)。ところでみなさんわさびの花って食べた事ある？すごくおいしいので紹介します！

収穫は？？

手でぽきぽき折りながら収穫します。ハサミも鎌も使いません。軟らかいので根元から折ることができます。

わさび田に咲くわさびの花です。４ 月上旬から、約３週間ほど咲きますが、旬の時期はとても短い。 ▶

わさびなのに生だと全然辛くないよ！

◀ 収穫したもの。瑞々しくておいしそう。生でも食べられますが、青臭さもあるのでお勧めしません。

わさびの花は湯がくと辛みが抜けてしまうので、ザルの上から熱湯を掛けて火を通します。湯を掛けたわさびの花。ちょっとしんなりしてる。 ▶

粗熱がとれたら軽く絞って一口大に切ります。その後、だしつゆ・甘酢・昆布茶などの好きな味付けをして密閉できる容器(タッパーやジッパー付き袋など)に入れて味をなじませます。
作りたてはぜんぜん辛くない、青菜のお浸しのような味がします。味付け前にかつお節とお醤油で食べてももちろん美味しい！

ここがポイント

作りたては辛くないのに、一晩付けるとぴりり！涙が出るくらい辛くなります。不思議～。

そのままでも酒の肴やご飯のお供に頂けますが、応用編として甘酢漬けのわさびの花と白ごま(たっぷり)を酢飯に混ぜて、稲荷寿司にするのがおすすめです！あぁ、今すぐ食べたい…！そうそう、もうわさびの花の季節は終わったので食べてみたい方はまた来年～。そういえばわさびの茎もぬか漬けにすると美味しいって教えてもらったよ！こんどやってみよー。

○　今後の活動予定のお知らせ（2018 年 夏～2018 年秋）

8/5-11　　冒険学校『こすげ冒険学校』　@小菅村 6 泊 7 日　　←日程が変更しています！！
8/11-20　　『タイ環境学習キャンプ』　@タイ王国　9 泊 10 日　　↓
8/14-16　　冒険学校『やまめキャンプ』　『いわなキャンプ』　@小菅村　1 泊 2 日 or2 泊 3 日
9/22-23　　『INCH まつり～INCH ライブ』　@小菅村　日帰りでも 1 泊でも
12/22-24　　冒険学校『まふゆのキャンプ』　@小菅村　2 泊 3 日

※　今年度の雑穀栽培講習会については、藤野町で自給農耕ゼミ雑穀栽培講習会が開催されますので、興味のある方は藤野町にご参加ください。　問い合わせ：宮本透　090-2205-8476

※　ログハウスづくりは、第 2・4 週末を中心に作業を進めています。興味ある方は、メーリングリストに登録しますので、事務局までご一報ください！！

○　事務局より

●「今春、小菅村の物産館にて農作物を売り始めてみました、バーコードも登録して。手始めにワサビの花とクレソンで、採取系の作物に限定。4 月の売り上げは 3 万円弱でした。生業が一つ増やせたかな～、と。　クロ」

○　事務局の麗しき日々

・せいじゅは卒業して無職になり、哲学をしているもよう。
・緑さんも退職して無職になったので、哲学しているもよう。
・のんちゃんは塾で働くことになったもよう。
・めぐちゃんとおこじが結婚しもよう。おめでとう～！！
・小菅村のアキ子さん（83 歳）は、バイクを新車に乗換えたもよう。
・翔くん「僕は仕事を半休取って、塩山へ飲みに来たんだよ！」

○会員の皆様へサービスのお知らせ

神奈川県相模原市藤野町にある『藤野倶楽部』は今年も INCH 賛助会員です。INCH 会員への特典として、ナマステ今号を持参された方には「百笑の台所」の食事料金を 10%割引いたします。アクセスは藤野倶楽部の HP をご覧ください！！

○　自然文化誌研究会　一緒に活動しませんか？

略称 INCH（インチ）。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、30 年以上にわたって活動を続けています。2004 年から NPO として再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF 環境学習中堅指導者養成講座（のびと研修会）』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。

本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。会員には以下 8 つの種類があります。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は年額（1～12 月）です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正 会 員：10,000 円　一般会員：5,000 円
学生会員：3,000 円　賛助会員(個人・団体)：10,000 円
家族会員：6,000 円　特別維持会員：100,000 円
植物と人々の博物館友の会会員：3,000 円
雑穀街道特別会員（小菅特別から変更）：1 口 1,000 円から
成合基金（冒険探検基金）：「成合基金」と記載してください。
郵便振替口座　：　00100-2-665768
口座名　：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

ナマステ 132 号

特定非営利活動法人　自然文化誌研究会　会報誌
＜発行日＞2018 年 5 月 25 日
＜編　集＞自然文化誌研究会　事務局
＜発　行＞特定非営利活動法人

自 然 文 化 誌 研 究 会
The Institute of Natural and Cultural History
＜事務局＞〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2
TEL：0428-87-0165・090-3334-5328（事務局黒澤）
E-mail：　npo-inch@wine.plala.or.jp
H P：　http://www2.plala.or.jp/npo-inch/
事務局ブログ：http://npoinch.naturum.ne.jp/（あんまり）

次回「ナマステ 133 号」は、9 月中旬の発行を予定しています。お楽しみに！！